

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	環境バリアフリー小委員会		主 査 名：岩田三千子 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：岩田三千子
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築環境工学分野のバリアフリーデザインやユニバーサルデザイン空間について、研究会や見学会などの議論の場を設けて、当該分野の新たな研究課題の抽出と重要性を検討することを目的とする。 ・ 建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザインについての研究者とも連携し、情報交換を行う。今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行う。また、それらの成果について、アカデミックスタンダードとして発信する準備をする。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	岩田三千子 (摂南大学)、土川忠浩 (兵庫県立大学)、堀越哲美 (愛知産業大学)、土田義郎 (金沢工業大学)、延原理恵 (京都教育大学)、安部信行 (八戸工業大学)、村上泰浩 (崇城大学)、二井るり子 (有限会社プラネットワーク)、田中直人 (島根大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2014 年度予算	153,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s18/	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	シンポジウム「五感を活用したサイン環境デザインの可能性」 参加者数 42 名 (2015 年 2 月 28 日開催)
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム「五感を活用したサイン環境デザインの可能性」を開催し、当該分野の新たな研究課題の抽出と重要性を検討することができた。 2. 建築学会計画系の研究者と連携し情報交換を通して、来年度大会における OS にて、環境バリアフリー関連のセッションを計画することができた。 3. メンバー各自がさらなる研究活動を行い、それらの成果について小委員会のホームページを整備した上で、情報交換の場として共有することができた。
委員会活動の問題点 ・ 課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員が本務ほか多用であり、委員会開催の日程調整が難しくなっている 2. 3.

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。
- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A (B) C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、QOLや法律、条例、要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握することに関して、委員会内ではアカデミックスタンダードなどの、ルール・指標づくりを目標として活動を進めてきた。</p> <p>建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザインについての研究者とも連携し、情報交換を行って、今後の研究活動についての目標設定を明確にしなが、メンバー各自がさらなる研究活動を行うことが目的の一つであった。これまでの委員会で情報を共有し、それらを小委員会のホームページのコンテンツを充実させることによって、光、音、温熱、空気環境など、環境バリアフリーに関する情報提供の場として情報を外部に対しても発信できるように整備を進めることができ、目的は達成されつつある。</p> <p>来年度大会におけるオーガナイズドセッションにて、建築計画の研究者とも連携した環境バリアフリー関連のセッションを計画することができたことも評価できる内容の一つである。</p> <p>建築計画の委員会とも連携して、シンポジウム「五感を活用したサイン環境デザインの可能性」を開催（金沢・2/28）し、当該分野の新たな研究課題の抽出と重要性を検討することができた。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。